

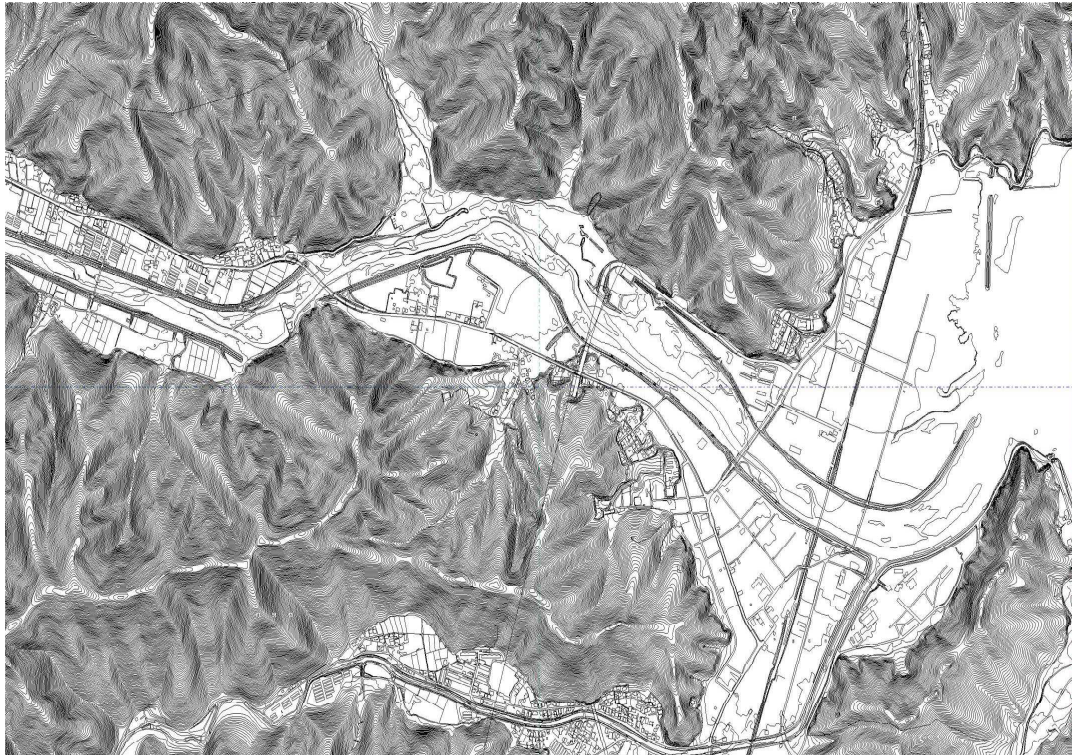
# 災害復興基図・応急災害対策基図1 (岩手県釜石市鵜住居地区)

災害復興基図と応急災害対策基図は、大地震後大きな被害を受けた地区を対象に、大縮尺で被災前の建物分布や土地利用などを網羅した基本図を空中写真や地理院地図に上乗せ情報して利用します。被災前後を比較することにより、災害復興に寄与すべく、被災自治体等に提供しています。

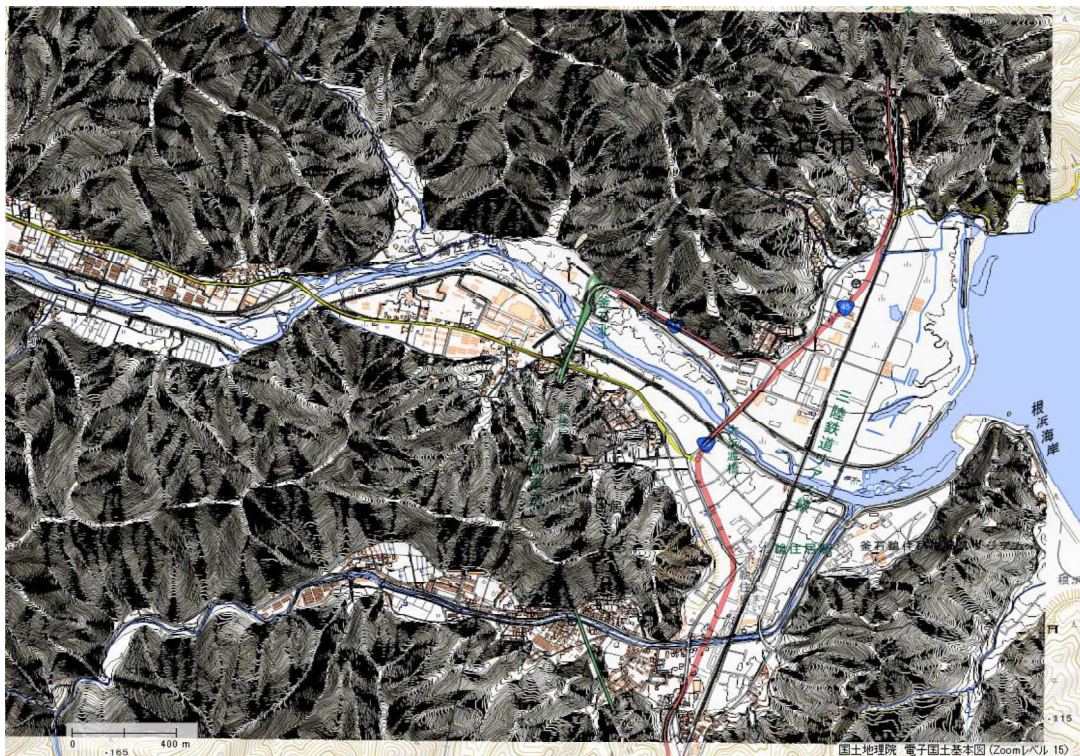
## 東北地方太平洋沖地震にかかる災害復興基図「釜石市鵜住居地区」

釜石市北部鵜住居地区です。津波により沿岸部のわずかな平地に立地していた集落は壊滅的な被害を受けました。現在も海岸部に浸水地が残るものの鉄道や幹線道路は復旧し、新たに高速道路も開通しました。内陸に新たな町ができつつあり、平成30年にはスタジアムも完成しました。

### 災害復興基図のみのデータ



### 災害復興基図を地理院地図に重ね合わせたデータ



# 災害復興基図・応急災害対策基図2 (熊本県益城地区)

## 熊本地震にかかる応急災害対策基図「益城町周辺地区」

平成28年4月に発生した熊本地震により大きな被害を受けた熊本市の東に位置する益城町周辺です。激しい振動で多くの家屋に被害が出ましたが、いまだ復興の途上です。この図からは見えませんが、大小の断層が散在しており、これらの活動により被害が大きくなりました。

### 応急災害対策基図のみのデータ



### 応急災害対策基図を地理院地図に重ね合わせたデータ

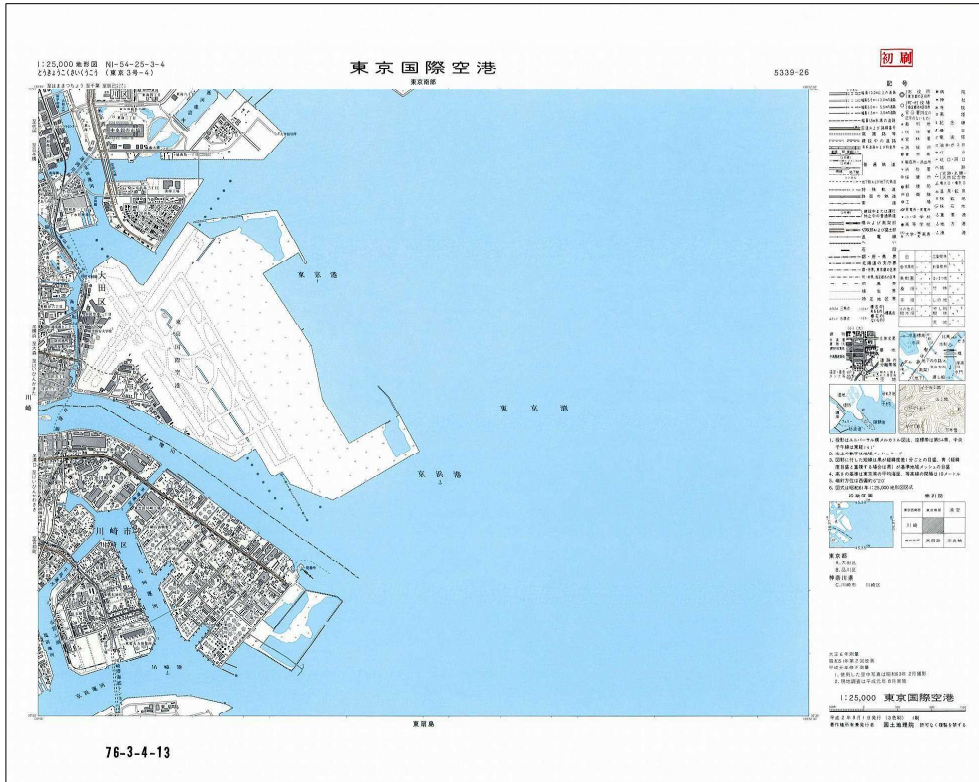


# 3色から多色刷り地形図へ 地形図で読む地域の変遷(1)

## 2.5万分1 地形図「東京国際空港」

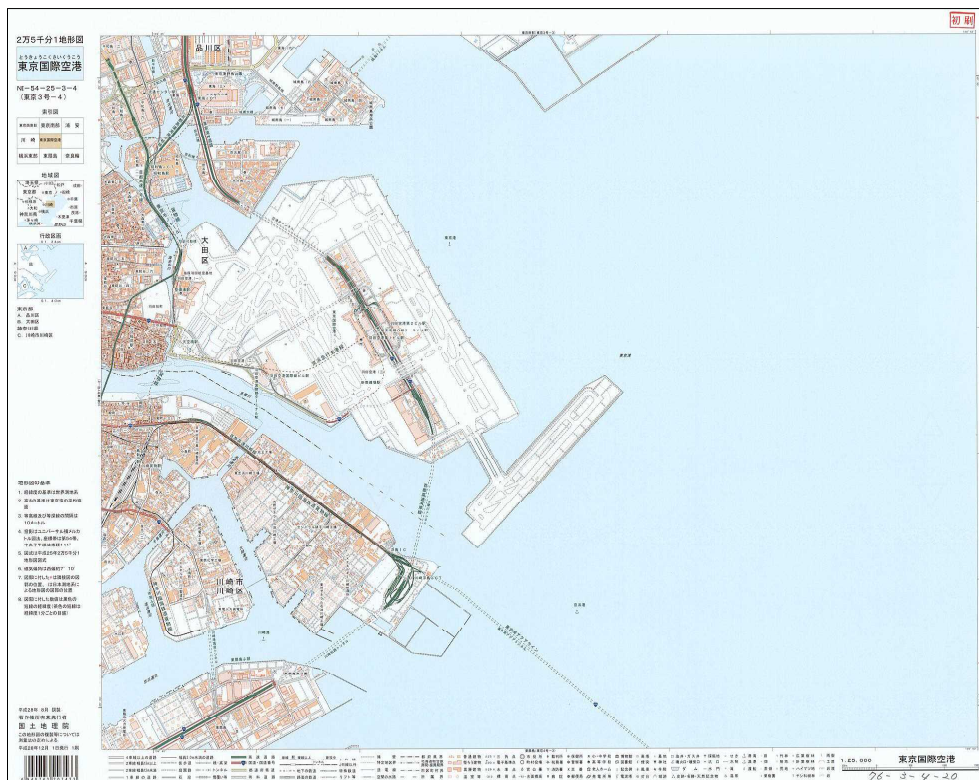
### —羽田空港の埋立と拡張—

平成2年更新（昭和61年式1:25,000地形図図式）



この時代は、専ら国内線専用空港でターミナルは1箇所、空港へはモノレールが主要なアクセス手段でした。

平成28年更新（平成25年1:25,000地形図図式）



平成25年から2万5千分1地形図（印刷図）は、「電子地形図25000」と同等の内容で、従前の地形図に比べて道路や建物などの情報が、より詳細に盛り込まれた地図に一新しました。

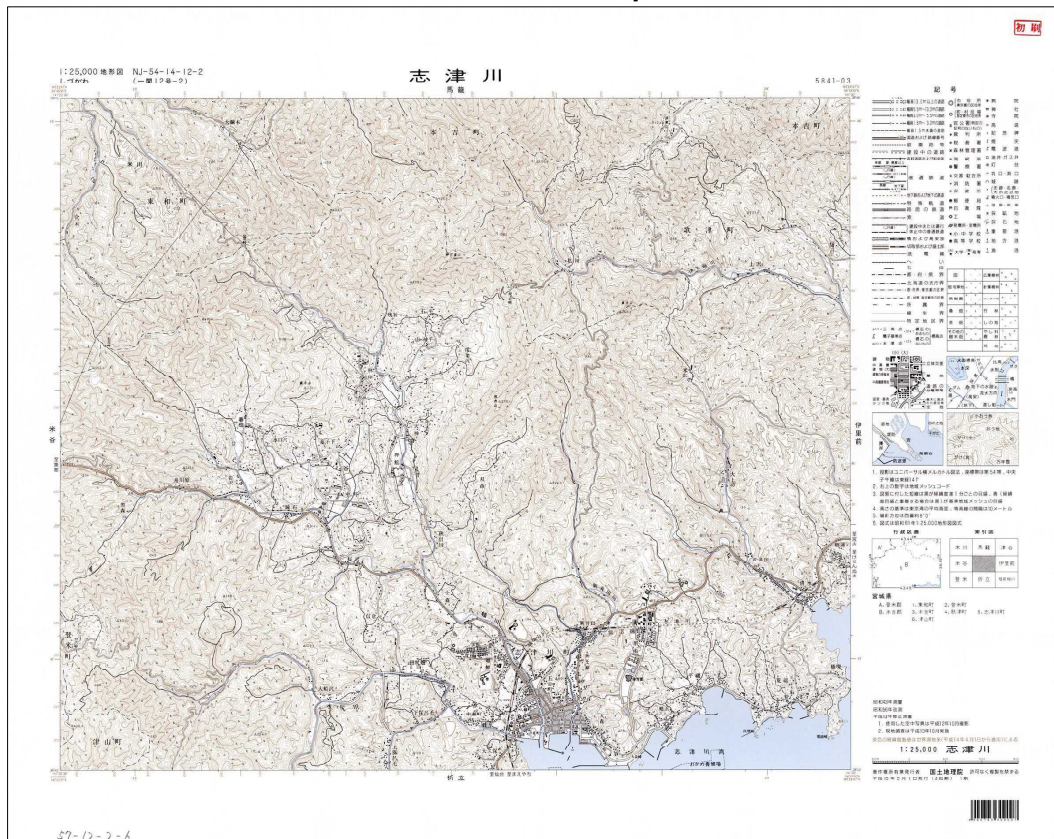
2万5千分1地形図（印刷図）は、昭和40年代から墨版（黒）、褐版（茶）、藍版（青）の3色刷で作成されていました。新図式の2万5千分1地形図（印刷図）では、印刷技術の高度化・多様化を受け、これまでの3色に限定せず多彩な色を使ってきめ細かな表現を可能にするとともに、地形に陰影を付し立体感を得やすくし、より読みやすく使いやすい地図になりました。

再び国際空港化しました。首都高速が縦断しICが開設され、鉄道2社が乗り入れ、3つのターミナルが供用されています。沖合に浮桟橋型の滑走路が増設されており、空港拡張の推移が分かります。

# 3色から多色刷り地形図へ 地形図で読む地域の変遷(2)

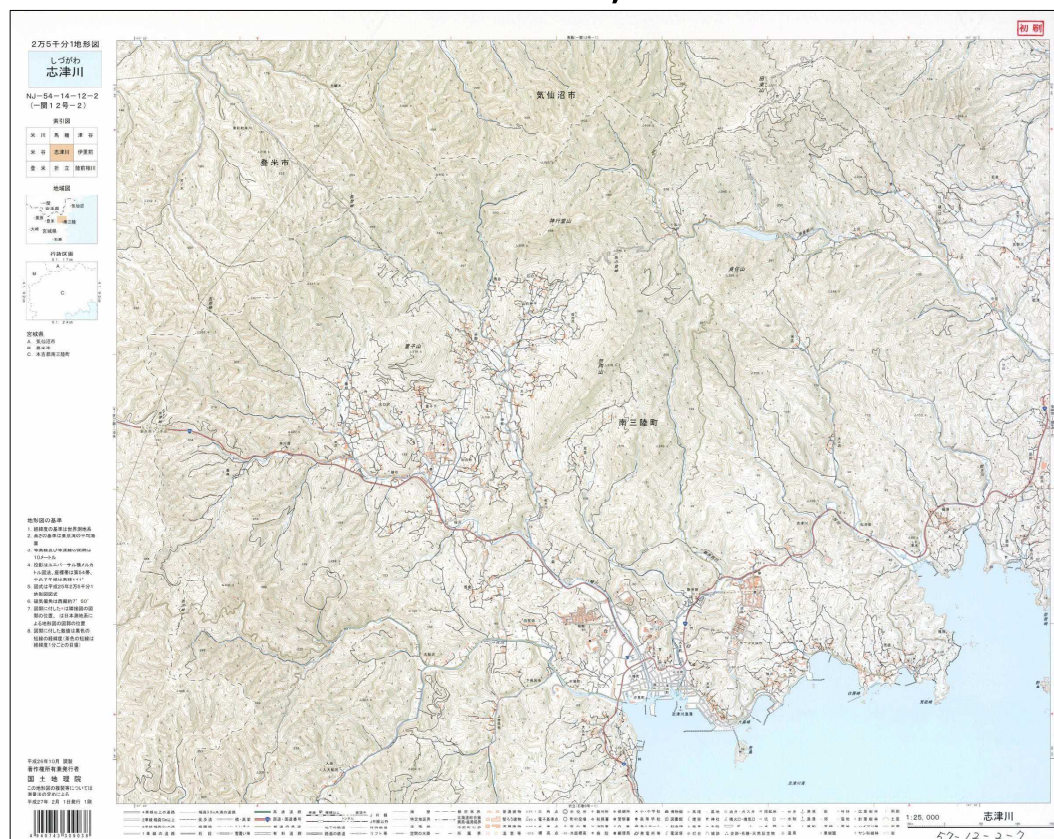
## 2.5万分1 地形図「志津川」 —東北地方太平洋沖地震 震災前後—

平成13年修正（昭和61年式1:25,000地形図図式）



平成の大合併前、南三陸町は志津川町と歌津町の2つの町でした。志津川町の中心部は、港湾に面して市街地が発達していました。

平成26年調製（平成25年1:25,000地形図図式）



東日本大震災後南三陸町中心市街地周辺が更地になり、鉄道が不通になっていることがわかります。